

千葉市通学路のカラー化計画

1 通学路の現状と課題

■現状

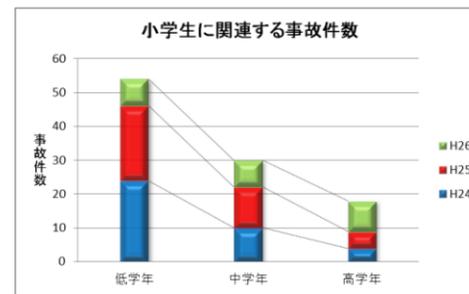
千葉市内には、平成27年度時点において、112校の小学校があり、児童数約4万9千人が約360kmの通学路を通り、登下校を行っています。そのうち、スクールゾーンにあたる学校から500mの範囲内における歩道の無い道路は、約33%の120kmとなります。

これまで、通学路の安全対策については、市民からの要望などを基に実施するほか、平成26年11月に「千葉市通学路交通安全プログラム」を策定し、教育委員会・警察・道路管理者の連携のもと、現地の立会いを実施し、対策を講じてまいりました。その安全対策の中でも、歩道の設置やガードパイプ等による歩車の分離が困難な場所について、路肩をスクールゾーンのイメージカラーである緑色に着色する、路肩のカラー化を行っています。

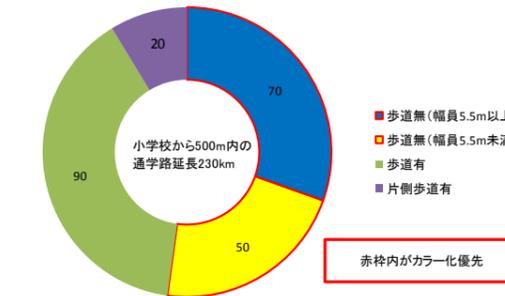
これらの取り組みにより、事故件数は年々減少しているものの、小学校低学年における事故件数は多い傾向にあります。

■課題

- 路肩のカラー化の実施から3年が経過し、その整備延長は14kmで総延長に対する整備率が4%と低い。
- 整備手法の統一性が図れていないため、その都度、関係機関との調整が発生し、施工までの期間が長くかかる。



事故件数の推移



学校から500m内の通学路の内訳（単位：km）



整備後のイメージ図

2 路肩のカラー化の整備方針

路肩のカラー化については、低学年への歩行空間の目安として効果を発揮するだけでなく、ドライバーへの注意喚起などの効果が見込まれるため、原則、両側をカラー化します。しかし、市内の通学路の総延長約360kmの中には、歩道の有無や道路の幅員の大小、住宅地や郊外など様々な状況が想定されることから、現場状況をパターン別に分類し、整備方針を定め、統一した整備を実施します。また、ゾーン30などの他の事業などと合わせて整備を行うことにより、より効果的なものとします。

- ① 通学路の内、学校から半径500mの範囲内かつ歩道等が無い箇所を優先して実施します。（優先順位：1 歩道無 2 片側歩道有 3 両側歩道有）
- ② 通学路の内、工作物等により歩車道が分離されていない道路においては、原則、両側にカラー化を実施します。また、外側線の無い道路の両側にカラー化を実施した場合は、交差点部の進行方向右側にストップマークや歩行者マークを設置します。
- ③ 片側に歩道（工作物等により分離された空間を含む）がある場合、歩道部に緑色の道路鋸等の反射物を設置します。
- ④ 両側に歩道がある場合、事故件数の多い箇所等をモデル路線とし、横断歩道部にカラー化を実施します。

3 整備スケジュール

本計画の対象箇所は、市内の小学校112校の通学路すべてを対象とし実施しますが、小学校から500m内の歩道の無い箇所を優先的に実施するとしても120km（事業費約6.0億円）の整備が必要となります。効率的な整備を行うため、学校関係者や警察等と調整機会のある「千葉市通学路交通安全プログラム」と整合を図り、実施することとし、対象箇所の優先順位の決定にあたっては、歩道の整備率、路肩のカラー化の整備率、児童数を基に決めることで、より効率的、効果的な事業の展開を図ります。

また、舗装の打ち換えや道路の改良事業、民間の開発行為などにより、道路整備が行われる場合においては、その事業に合わせ、積極的にカラー化を実施するよう調整を行います。

これらのことを踏まえ、「千葉市通学路交通安全プログラム」における合同点検の3サイクルである9年間で、小学校から500mの範囲内における歩道の無い箇所への路肩のカラー化の整備の完了を目指します。

4 計画の更新

通学路の実態に合う路肩のカラー化を実施するため、本計画を適宜更新していくものとします。計画の更新の際には、年度ごとに更新される通学路の路線や区間を反映し、整備後の効果測定等を参考に、より効果的な手法への変更などを反映させます。